

# IT・データ活用に関する組織連携指標 説明書

2026/5/25

独立行政法人情報処理推進機構

- ◆ 本資料は、「IT・データ活用に関する組織連携指標」のコンセプトを示したものです。
- ◆ 想定読者は、CIO／CDOやIT・情報システム部門長などの意思決定層ですが、それ以外の方にも広くご活用いただくことを想定しています。
- ◆ 留意事項  
本資料は主にユーザー企業を対象として作成しています。  
ベンダー企業およびコンサルティング企業の皆様におかれましては、  
支援先のユーザー企業を想定してください。

DXを進めるためには、組織の体制を整えることが欠かせません。そのためには、DX推進における組織や役割分担、権限のあり方といった課題に対応し、施策を着実に実行できる体制を整えていく必要があります。しかし、こうした課題に十分対応できない場合、DX施策の実行スピードが思うように上がらず、DXが成果に結びつかないケースが見られます。

本指標は、DX推進における組織連携上の課題に着目し、経営、IT、事業部門等の間で、どのような役割分担・意思決定・連携が行われているかを整理し、改善の方向性を示すための指標です。DXを実行するための組織的な土台が整っていることを確認することを目的としています。

本指標を活用することで、DX推進における経営・IT・事業部門の連携上のボトルネックを可視化し、見直しにつなげることができます。その結果、DX戦略と実行の接続が強まり、DX-IT推進指標やデータマチュリティ推進指標をより効果的に活用しやすくなることが期待されます。

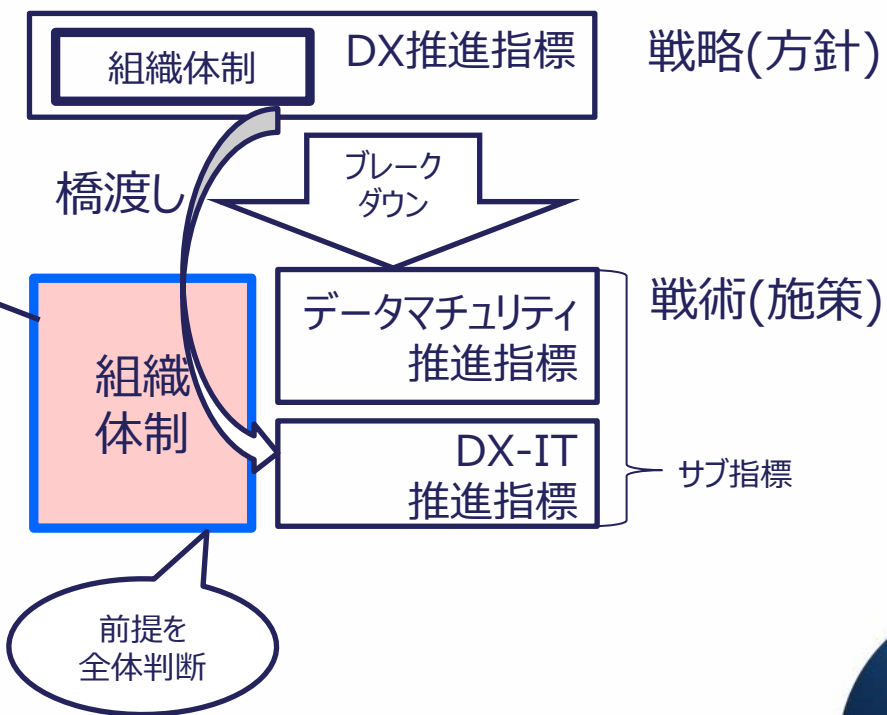
本指標は現在、検討中の構想案として公開しており、設問や構成等を含め今後検討を深めていく予定です。ぜひ内容をご参照いただき、課題認識や位置づけの妥当性等、今後の検討に向けたご意見をお寄せください。

- DX推進指標の組織・体制領域を具体化し、DX-IT・データマチュリティ推進指標において共通の前提となる組織・体制を整える、橋渡しの位置づけです。
- 特に、国内においてDXが進みにくい組織的な課題を踏まえた設問設計を意識します。  
(なお、AIトランスフォーメーションは組織の在り方に影響するため、今後検討を視野に入れます)

## 【対象範囲】

### DX推進・実行に向けた「体制・役割・権限」の観点からサブ指標の橋渡しとなるように設問整理

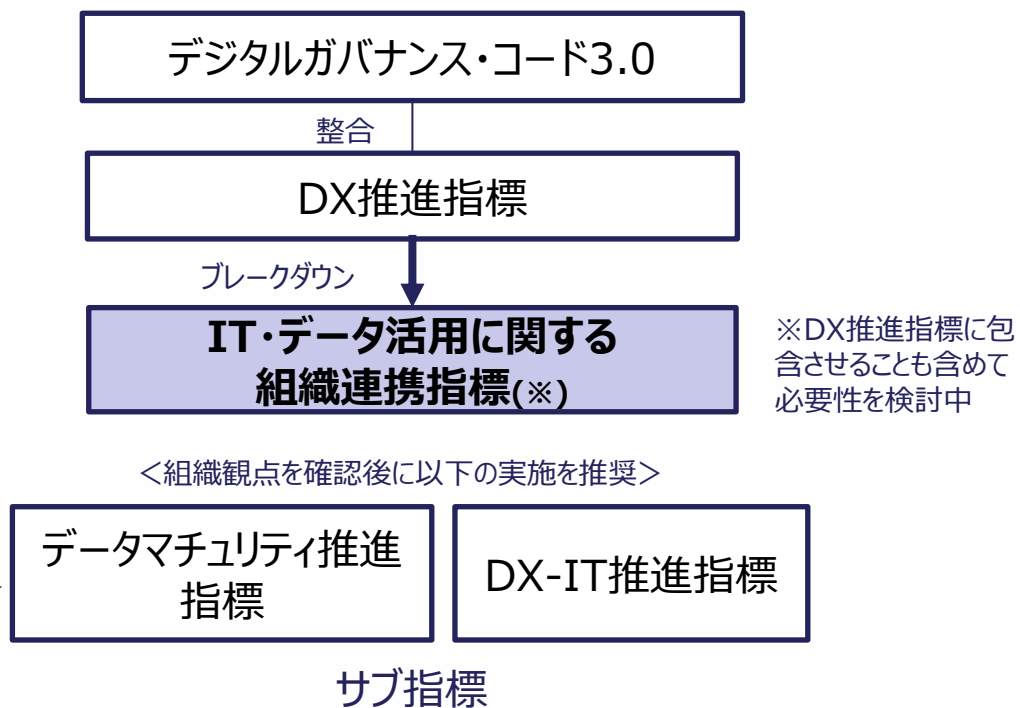
- ①データ利活用に関する体制・役割・権限
- ②DX戦略推進に必要なITシステムに関する体制・役割・権限
- ③データとITシステムの効果的な連動にむけた体制・役割・権限



# 独立した指標とする理由について

- 組織課題は各サブ指標(DX-IT/データマチュリティ)共通の横断的テーマであり、サブ指標に組み込むと十分に可視化できない可能性があります。そのため、サブ指標へ繋げるための土台として当該観点を明示的に位置づける観点から独立した指標としています。
- 他の手段（ガイドライン、チェックリスト等）も含めて、どの手段が適切か、今後検討を進めます。

## 【各指標の相関図】



## 【IT・データ活用に関する組織連携指標の内容】

項目	内容
目的	・DX推進における体制・役割・権限上の課題への気付きを促す(DX戦略の推進に必要なITガバナンスを進めるための体制構築等)
範囲	DX（将来的なAIトランスフォーメーション）を推進するための仕組みとして、体制・役割・権限を中心とした指標(まずは、DX-IT・データマチュリティ推進指標の前提となる体制・役割・権限に注力)。
利点	・DX推進の土台となる体制・役割・権限上の課題を把握できる ・顧客価値向上に向けた組織づくりの方向性を示す

# 設問の具体イメージ

- DX-IT・データマチュリティ推進指標の土台としてDXの組織に関する設問を設定することで、経営・DX推進部門・IT部門・業務部門の一体化を促し、双方の**推進指標がDX文脈で効果的に利用されることを狙います。**

## 【設問イメージ】

### ①データ利活用に関する体制・役割・権限

- CDOを設置し十分な権限を与えているか。
- CDOとCIO/IT部門と密連携させているか・・・など

### ②DX戦略推進に必要なITガバナンスに関する体制・役割・権限

- CIOを設置し十分な権限を与えているか。
- DX推進部門と事業部門等の関連部門と、IT部門をDXに向け密連携させているか、経営が関与しているか。

### ③データとITシステムの効果的な連動にむけた体制・役割・権限

- IT戦略とデータ戦略の同時設計を行うために、CDOとIT部門を密に連携させているか・・・など

※個社の体制は様々ですが、DX推進において必要と考えられる「体制・役割・権限」の設計原則を示すことを目的とします。各企業が、具体的な組織構造を各々の状況に応じて設計することを想定しております。

# スコープ検討

- 今回はサブ指標の効果に直結すると考えられる「体制・役割・権限」に着目しましたが、DX推進上の組織課題は広範な観点に及びます。今後はそれも踏まえ、適切な整理を進めます。

## 【DX推進上の組織課題(整理中)】

カテゴリ	課題例
体制・役割	情報システム部門・事業部門・DX推進部門等の関連部門と、経営との緊密な連携ができていない
経営コミットメント・意思決定	DXに関する喫緊性・必要性の認識欠如 トップダウン方針／IT投資判断が不足／IT・DXへの理解(DXを投資と捉えない)
実行能力の不足	責任感を持ってリードできる人材が不足 上流人材の育成が不足／業務・ITを理解した人材の不足
ベンダーとの関係性	システムのモダン化の方針や計画をベンダーと協力して策定できていない。 ベンダー依存からの脱却が十分に進んでいない。
構造的なレガシー固定化	レガシー問題の経営課題化／自分事化が不足している。 ITシステムを投資対象ではなくコストとみなし、十分な予算が確保されていない
変革マインド	現行踏襲への強いこだわり 業務プロセスの見直し／標準化が不足

今回の着目点  
(サブ指標の  
効果に直結)

Proof of  
Conceptで寄  
せられたコメ  
ントに関連

本件に関するお問い合わせにつきましては、下記窓口までお願いいたします。

## 【IT・データ活用に関する組織連携指標窓口】

- メールアドレス：[disc-legacy-mod@ipa.go.jp](mailto:disc-legacy-mod@ipa.go.jp)



IT・データ活用に関する組織連携指標 説明書

<https://www.ipa.go.jp/disc/committee/dx-it-data-assessment.html>

2026年5月25日

独立行政法人情報処理推進機構

©Information-technology Promotion Agency, Japan (IPA)

<https://www.ipa.go.jp>

<この文書のご利用にあたって> 本指標の内容を適用した結果生じたこと、  
また、適用できなかった結果については、IPAは一切の責任を負いかねますのでご了承ください。